

1.はじめに

日本語文章表現教材:「だから」を書き言葉としているものと、話し言葉としているものがある。「硬い文章」といっても、ジャンルや分野によって特徴があるのではないかと。学術論文と論説文における「だから」を含む順接接続詞の使用状況を調査

- ・J-stage(科学技術振興機構)に収録されている15学会誌各50本(著者が異なる)の学術論文
- ・webronza(朝日新聞)に収録されている5分野各50本(著者が異なる)の論説文

3.「だから」に関する先行研究

- ・ひげ(1987)、石黒(2016)、沖森(2016)
「だから」:主観的な結論付け 「したがって」「そのため」等:客観的な結論付け
- ・劉(2006)
論説文における「だから」の使用回数を調査。学術論文とは異なり、著者の主観が許される論説文では「だから」が用いることができる。ただし学術論文の使用回数を調査をしていない。
- ・向坂(2019)
学術論文(紀要・博論)における「だから」の使用状況(出現数・使用者数)を調査。文系では一定数使用されているが、理系では使用が見られず。
理系:数値などの客観的な証拠に基づいて研究。
文系:客観的な証拠に基づいた研究しているとは限らない。
ただし、調査対象とした理系学術論文が19本で、限定的であった。
→本研究ではより幅広い分野の学術論文と論説文を横断的に調査し、順接接続詞の使用状況を比較する。

4.学術論文における順接接続詞の使用状況

学術論文:専門的な問題について新しい見解を示す
論説文:一般的な問題について自分の意見を述べる(国語教育研究所1991)
学術論文における順接接続詞の使用状況(10万字当たり)

	分野	「だから」											
		だから	それで	なので	よって	ゆえに	それゆえ	そのゆえ	その結果	そのため	このため	したがって	
文系	『日本文学』	3.4	0.1	0.0	0.3	0.1	1.2	0.0	1.2	1.1	0.1	3.8	
	『日本語の研究』	0.1	0.0	0.0	3.9	0.1	0.5	0.0	4.2	8.4	0.5	9.2	
	『日本語教育』	0.1	0.0	0.0	2.3	0.3	0.4	0.0	10.9	8.2	1.0	4.6	
	『年報社会学論集』	1.4	0.0	0.0	0.9	1.5	6.5	0.0	3.4	8.7	1.3	6.3	
	『宗教哲学研究』	1.3	0.6	0.0	1.6	0.7	10.5	0.0	2.1	6.0	0.4	14.2	
	『刑法雑誌』	1.7	0.0	0.0	1.0	1.1	8.8	0.0	3.7	9.1	0.7	18.1	
	『国際政治』	0.2	0.0	0.0	0.9	0.4	3.0	0.0	3.6	9.9	0.7	6.4	
	『国際経済』	0.4	0.2	0.0	3.6	0.4	2.3	0.0	6.6	6.2	2.2	12.4	
	『日本経営学会誌』	0.1	0.0	0.0	4.0	1.2	5.7	0.0	6.5	15.1	3.2	13.7	
	文系合計		0.9	0.1	0.0	2.1	0.7	4.2	0.0	4.9	8.4	1.2	9.7
理系	『数学』	0.2	0.0	0.0	7.6	1.1	3.4	0.0	0.6	4.1	0.6	23.1	
	『日本内科学雑誌』	0.0	0.0	0.0	2.2	0.2	0.3	0.0	5.2	3.9	1.1	7.6	
	『化学と生物』	0.0	0.0	0.3	0.8	0.2	2.2	0.0	11.8	6.5	1.6	9.9	
	『日本化学会情報化学部会誌』	0.3	0.0	0.0	0.5	0.3	0.5	0.0	2.3	7.4	2.3	12.3	
	『海の研究』	0.1	0.0	0.0	0.8	0.0	0.3	0.0	8.7	5.5	3.6	6.6	
	『鉄と鋼』	0.0	0.0	0.0	1.2	0.2	0.3	0.0	4.3	7.7	2.3	13.3	
	理系合計		0.1	0.0	0.0	2.9	0.4	1.4	0.0	5.0	5.6	1.9	13.4

学術論文における順接接続詞の使用者比率(各50著者における比率)

	分野	「だから」											
		だから	それで	なので	よって	ゆえに	それゆえ	そのゆえ	その結果	そのため	このため	したがって	
文系	『日本文学』	26.0%	2.0%	0.0%	2.0%	2.0%	14.0%	0.0%	14.0%	14.0%	2.0%	24.0%	
	『日本語の研究』	2.0%	0.0%	0.0%	24.0%	2.0%	8.0%	0.0%	40.0%	40.0%	8.0%	42.0%	
	『日本語教育』	2.0%	0.0%	0.0%	22.0%	6.0%	6.0%	0.0%	70.0%	68.0%	10.0%	38.0%	
	『年報社会学論集』	22.0%	0.0%	0.0%	8.0%	8.0%	38.0%	0.0%	44.0%	68.0%	18.0%	54.0%	
	『宗教哲学研究』	14.0%	4.0%	0.0%	12.0%	12.0%	56.0%	0.0%	22.0%	28.0%	6.0%	72.0%	
	『刑法雑誌』	12.0%	0.0%	0.0%	8.0%	8.0%	38.0%	0.0%	30.0%	56.0%	2.0%	68.0%	
	『国際政治』	2.0%	0.0%	0.0%	16.0%	6.0%	32.0%	0.0%	54.0%	72.0%	8.0%	48.0%	
	『国際経済』	6.0%	4.0%	0.0%	10.0%	4.0%	20.0%	0.0%	50.0%	44.0%	18.0%	64.0%	
	『日本経営学会誌』	2.0%	0.0%	0.0%	18.0%	8.0%	34.0%	0.0%	54.0%	66.0%	26.0%	78.0%	
	文系合計		9.8%	1.1%	0.0%	13.3%	6.2%	27.3%	0.0%	42.0%	50.7%	10.9%	54.2%
理系	『数学』	6.0%	0.0%	0.0%	54.0%	24.0%	24.0%	0.0%	16.0%	56.0%	18.0%	88.0%	
	『日本内科学雑誌』	0.0%	0.0%	0.0%	12.0%	2.0%	4.0%	0.0%	36.0%	36.0%	6.0%	36.0%	
	『化学と生物』	0.0%	0.0%	2.0%	10.0%	2.0%	10.0%	0.0%	68.0%	28.0%	10.0%	52.0%	
	『日本化学会情報化学部会誌』	4.0%	0.0%	0.0%	4.0%	4.0%	16.0%	0.0%	54.0%	20.0%	50.0%		
	『海の研究』	2.0%	0.0%	0.0%	14.0%	0.0%	6.0%	0.0%	76.0%	52.0%	38.0%	56.0%	
	『鉄と鋼』	0.0%	0.0%	0.0%	14.0%	4.0%	6.0%	0.0%	46.0%	54.0%	22.0%	64.0%	
	理系合計		2.0%	0.0%	0.3%	18.0%	6.0%	9.0%	0.0%	43.0%	46.7%	19.0%	57.7%

- ・「だから」使用件数:文系0.9件 理系0.1件。使用者比率:文系9.8% 理系 2.0%。文系に比べて理系が少ない。
- ・文系の中では日本文学が使用件数3.4件、使用者比率26.0%と多い。「したがって」の3.8件に次いで「だから」が使用されている。
- ・社会学、宗教哲学、刑法では使用者比率が12~22%。
- ・日本語学、日本語教育学、国際政治学、国際経済学、経営学では使用件数も使用者数も少ない。
- ・「だから」:理系学術論文では稀。文系学術論文では分野によっては使用される。

参考文献:
石黒圭(2012).『論文・レポートの基本』,日本実業出版社.
石黒圭(2016).『接続詞の技術』,実務教育出版.
伊集院郁子・高野愛子(2020).『日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座』,アスク出版.
沖森卓也(2016).『文章が変わる接続語の使い方』,ペレ出版.
国語教育研究所(1991).『国語教育研究大辞典普及版』,明治図書.
ひげひろし(1987).「「それで」「だから」「したがって」」『教育国語』88, pp.46-59.
向坂卓也(2019).「学術論文における接続詞「だから」の使用」『日語偏誤と日語教学研究』4, pp.172-188.
向坂卓也(2021).「学会誌論文における原因理由を表す接続表現「ことから」」『日本語教育方法研究会誌』28(1), pp.112-113.
劉怡伶(2006).「接続詞「だから」の意味・用法-前件と後件に因果関係が認められる「だから」を中心に-」『世界の日本語教育』16, pp.125-137.

2.日本語文章表現教材における「だから」の取り扱い

論文・レポート教材:「だから」は話し言葉。書き言葉文では使わない。
小論文教材:「だから」を話し言葉としているものと、書き言葉としているものがある。

教材名	話し言葉	書き言葉	対象			目標		
			留学生	大学生	高校生	論文・レポート	小論文	
① 『大学生と留学生のための論文ワークブック』(1997)	だから/それで	ゆえに/それゆえ/したがって	○	○		○		
② 『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』(2003)	だから	したがって	○			○		
③ 『小論文への12ステップ』(2008)	だから/ですから	そのため/したがって	○				○	
④ 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』(2009)	だから	したがって	○			○		
⑤ 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(2009)	だから	したがって	○	○		○		
⑥ 『論文・レポートの基本』(2012)	だから	そのため		○		○		
⑦ 『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語④論文作成編』(2015)	だから/ですから	そのため/そこで/したがって	○			○		
⑧ 『学生のレポート・論文作成トレーニング-改訂版-』(2015)	だから/なので	そのため/それゆえ/それで		○		○		
⑨ 『レポート・論文を書くための日本語文法』(2016)	だから/それで	そのため/したがって	○			○		
⑩ 『21世紀のカレッジ・ジャパニーズ』(2018)	だから/それで	そのため/したがって	○	○		○		
⑪ 『思考を鍛えるレポート・論文作成法第3版』(2019)	だから	したがって		○		○		
⑫ 『日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座』(2020)	ですから/だから/なので/そして/それで/で	そのため/したがって/そこで/その結果/よって/ゆえに	○			○		
⑬ 『改訂版 何を書けばわからない人のための小論文のオキテ』(2020)	だから/なので	そこで/したがって				○		
⑭ 『7日間で合格する小論文』(2021)	なので/だから	したがって/そのため				○		

教材名	話し言葉	書き言葉	対象			目標		
			留学生	大学生	高校生	論文・レポート	小論文	
⑮ 『大学入試小論文の完全攻略本』(2010)	なので	だから/よって/ゆえに/したがって			○		○	
⑯ 『小論文 これだけ!書き方超基礎編』(2013)	なので	だから			○		○	
⑰ 『小論文をひとつひとつわかりやすく』(2016)	なので	だから/したがって			○		○	
⑱ 大修館書店『国語表現 改訂版(平成30年)』(2018)	なので	だから/したがって			○		○	

5.論説文における順接接続詞の使用状況

論説文における順接接続詞の使用状況(10万字当たり)

分野	だから	それで	なので	よって	ゆえに	それゆえ	そのゆえ	その結果	そのため	このため	したがって
文化・エンタメ	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.8	4.2	1.5	3.0
科学・環境	5.2	0.8	0.8	0.0	0.4	0.0	0.0	7.6	8.8	5.2	6.4
政治・国際	6.9	0.0	0.0	0.0	2.2	0.7	0.0	2.9	5.8	1.8	4.0
経済・雇用	9.9	0.4	0.0	0.4	0.4	0.4	0.0	1.9	3.4	3.1	3.4
社会・スポーツ	10.0	0.4	0.0	0.0	0.4	2.2	0.0	2.6	3.3	0.0	4.1
合計	8.7	0.3	0.2	0.1	0.7	0.9	0.0	3.1	5.1	2.3	4.2

論説文における順接接続詞の使用者比率(各50著者における比率)

分野	だから	それで	なので	よって	ゆえに	それゆえ	そのゆえ	その結果	そのため	このため	したがって
文化・エンタメ	48.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.0%	0.0%	4.0%	18.0%	4.0%	14.0%
科学・環境	18.0%	4.0%	4.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	26.0%	30.0%	22.0%	28.0%
政治・国際	26.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.0%	4.0%	0.0%	14.0%	26.0%	6.0%	18.0%
経済・雇用	28.0%	2.0%	0.0%	2.0%	2.0%	2.0%	0.0%	6.0%	14.0%	14.0%	16.0%
社会・スポーツ	22.0%	2.0%	0.0%	0.0%	2.0%	12.0%	0.0%	12.0%	16.0%	0.0%	14.0%
合計	28.4%	1.6%	0.8%	0.4%	2.4%	4.8%	0.0%	12.4%	20.8%	9.2%	18.0%

- ・論説文全体では「だから」は使用件数8.7件、使用者比率28.4%で順接接続詞の中で「だから」が最も多く使用されている。学術論文よりも「だから」が多く使用されている。
- ・科学・環境分野では「その結果」「そのため」「したがって」に比べると「だから」は使用されていないが(使用件数5.2件)、理系学術論文に比べれば多く使用されている。
- ・学術論文に比べると専門分化されておらず、他の分野に跨る内容の論説文もある。

6.学術論文と論説文における「だから」

- ・解釈:著者が現象や作品について解釈
おそらく、二日の日の宴は、国司たちは各地より参集した郡司たちの接待に余念がなかったはずであり、家持をはじめとする国司たちは、その接待に気を使ったものと思われる。**だから**、家持たちは、郡司の招待宴が終わると安堵したはずである。(『日本文学』)
- ・意見:著者が自分の意見を主張
そしてこの「万人が認める事実」を提供するのが「科学」である。**だから**、デモクラシーにサイエンスリテラシーが必須なのである。(webronza 科学・環境)
→数値などの客観的な証拠に基づくものではなく、著者の主観性が入り込む余地もあるので、「だから」が使用されている。

7.なぜ小論文では「だから」の使用が可能なのか

- ・小論文を書くことを目標としている教材では「だから」の使用を可能としているものがある。
- ・小論文:主張を根拠を挙げて述べる。主張は書き手の頭の中の知識や一般的知識、社会的常識でよい。資料やデータに基づく客観的証拠の提示や文献の引用はなくても問題ない(伊集院・高野2020)
- ・小論文:時間制限と戦いながら試験場で書く文章。その場で思いついた発想を自分なりに論理を組み立てて面白く書けばよく、厳密な検証は要求されない。(石黒2012)
→学術論文やレポートに比べると客観性の要求が低く、主観的な結論付けを表す「だから」の使用が可能

8.まとめ

- ・「だから」理系学術論文では稀。文系学術論文では分野によっては使用される。論説文では各分野で使用される。
- ・「だから」が許容されるか否かは、書き言葉文であるか、話し言葉文であるかではなく、客観性の要求が高いかどうかである。
- ・「だから」は話し言葉なので書き言葉文で使用されない(教材の説明)・・・主観性・客観性を判断できない学習者向けの教育上の配慮として言い切っていると考えられるが、これは本質ではない。結論付けが主観的か、客観的かが問題。
- ・学習者に対する指導・・・どのように結論付けをしているのかを見極める必要がある。